発行月：平成 26年 10月　家族新聞　第347号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

子どもたち今が大切なとき。心の教育。

平成26年10月10日(金)中部保育園年長組の清掃活動。午前十一時頃尾張旭名鉄駅ロータリー場所歩道でゴミ拾い活動を実施した。この活動は尾張旭市の保育園8ヶ所がプラスワンの一環として年長組に心の教育が必要と各保育園のアイデンティを生かして行なったものです。子供達に聞くと「面白いしまちがきれいになるからもっとやりたいと言っていた。」

▲中部保育園年長組が清掃活動スタート

自分を大切にする友達を大切にする、モラルがある。あいさつができる、自分で考え行動できる……。できて当り前でなくなってきました。勉強ができるようになる前に、まずは「当り前」ができるようになってほしい。そんな親の思いにお応えします。当たり前ができる子に育てる。

▶軍手みんな忘れました。

子どもに早く「当り前」ができるようになってほしいという親心から、つい「ちゃんとしなさい」「早く」「早く」「ガンバリなさい！」「頑張りなさい」などの言葉を使ってしまいがち。だがこれらの言葉をいくら連発しても子どもはできるようにはならない。できない現状を指摘しているだけで、子どもにはどうすればいいのかわからないからだ。「きちんと」は親には都合のいい言葉ですが、子どもには抽象的でわかりにくい。「相手の顔を見て元気な声であいさつするとお互い気分がいいよね」と話すことは手本を示して「朝起きて顔を見ておはよう」と言う。

◀あるかな!?歩道でぐるぐる

子どもができないと嘆く前に親に必要な発想の転換。言葉だけではなく気持ちを伝えることの大切さを教える。「楽しく、ゆっくり、続けて」を基本に、じっくり取り組ませる。口出し注意は最低限にとどめる。「あなたは大切」との思いを言葉で伝える。

▶駅前でのゴミ拾い。